

With コロナ時代のコミュニティ像の模索：本特集 の背景・構成及び考察のポイント：2 資料と解題

鎌田，宜佑
九州大学大学院人間環境学府

<https://doi.org/10.15017/6757917>

出版情報：社会教育研究紀要. 4, pp.64-85, 2022-05-31. Faculty of Human-Environment Studies,
Kyushu University

バージョン：

権利関係：

2 資料と解題

2-1 第2ステージへ向かう、久留米オンライン公民館

—グループヒヤリングより—

“Kurume Online Kominkan” heading for the second stage

参加者：おきなまさひとさん まちびと会社 VisionAreal
川崎 睦己さん くるめウス施設長・社会人落語家
福々亭金太郎（通称きんた）さん
中村 路子さん まちびと会社 VisionAreal・Mellicore・
一般社団法人 umau
牛島 敦子さん HAPPY M STYLE・Mellicore・久留米
市市民活動サポートセンターみんくる
副センター長

および九州大学教育学部「生涯学習概論演習（2021）」参加者、
岡 幸江（授業指導教員）、鎌田宜佑（Teaching Assistant）

※（ ）は編者加筆

[1] 任意団体としてのオンライン公民館

【おきな】オンライン公民館も一緒に、1期目はビジョナリアルが運営、僕と中村で立ち上げて、2期目から任意団体ですよ。

【福々亭】ですね。

【おきな】任意団体にして、普通、逆じゃないですか。任意団体から始まって法人にするんですけど、ビジョナリアル自体がまちびと会社ビジョナリアルってということで、地域のプロジェクトづくりが仕事なので、そういう感じでやっています。なので、黒子。あまり見えなくていい会社かなっていうふう。

[2] オンライン公民館スタッフの様々な“顔”と“パラレルワーク/パラレルキャリア”

【鎌田】これ（牛島さんと中村さんの所属団体の多様さ）とオンライン公民館って、何かしら関係が（ありますか）？

【牛島】最初は関係なかったのに、最終的に関係があるっていうことになっているんです。最初オンライン公民館に参加したときは、私は、そのHAPPY M STYLE（という市民活動団体）の人として参加した。その頃、私はみんくるのスタッフ2年目でした。（略）みんくるっていうのは、市民活動をサポートするセンターなんですけれども。（略）HAPPY M STYLEはコロナで活動を休止している関係上、HAPPY M STYLEの人からみんくるの人に私はなっていき、（略）、みんくるとしてオンライン公民館に出ることが多くなったんです。そして、今や、むしろ、みんくるの人となっています。

【中村】みんな流動的だもんね。いろんな顔があるよね。

【おきな】みんくるをNPOでやろうっていう話があったんです。企業共同体を作るときに。でも、僕たちはそれをノーって言ったんです。1つの法人を創ってそこで雇用して、10人ぐらいスタッフがいて、10人

ぐらいの雇用を生む。そうなってくると、財務、労務、法務の手続き関係とかがすごい楽なんです。それを久留米ガスさんはおっしゃったんですけど、僕らはそれをノーって言ったんです。なぜかと言うと、働き方も多様化しているし、これから地域で活動していく人たちが1つの組織に所属して、そこから固定したお金をもらっていくっていう生き方は、多分もうなかなか難しくなってきますと。なので、我々はそういう委託とか、いくつもの収入を持っている、ダブルインカム、トリプルインカム、いろんな収入を持っている人たちが、そこにフリーランスとして関わられるようにということで、任意団体のままでJVを組んだんです。なので、みんなが何かしらの地域活動とか役職を持っている人たちの集まり。10数名の集まりが、みんくるです。あつこの場合は、メリコアとか、MSTYLEとかというような感じ。

【福々亭】パラレルキャリア。

【おきな】パラレルキャリア。

【福々亭】そうですね。ここ（久留米オンライン公民館）もそんな感じですよ。

（略）

【福々亭】いろんな仕事を。私も落語をしたりとか。

【岡】（オンライン公民館の）施設長だからといって、ここにずっといるわけでは全然なくて。

【福々亭】そうそう。ここ（オンライン公民館）のスタッフもいろいろ自分でやったりとかして。

【3】オンライン公民館と校区コミセンの対等な関わり—江上校区の事例から

【中村】久留米市の地域福祉課の委託事業で、地域福祉ロマンっていうプロジェクトをやらせてもらったんです。社会福祉協議会と久留米市と私たちの三者合同で、校区の人たちと実際にかかわりを持つためにやっていたオンラインサロン事業。江上校区が他の校区に比べて活発で、校区の中にまた5つぐらいの町ごとのちっちゃいサロンがあって、高齢者の方々が月1回集まって芋掘りをするとか、お料理会をするとかってというのがあって。（ところが）コロナになって、オンラインも皆さん使えないから、江上校区の人はいつでもオンラインが使えるように、1回ちょっとイベント的にやってみようって、江上校区で、オンラインを勉強して。

【岡】それ、いつ頃の話ですか。

【牛島】昨年度です。高齢者の女性が多かったんじゃないの？ 男性も多かったのかな。

【おきな】プロジェクト担当の子が、今オンライン公民館みたいなコンテンツで試すんだったら、江上がすぐ動くやろう、と。社協だからわかるじゃないですか。「ここだ！」って。

【おきな】「やってみやんね」みたいな。

【中村】私、メイクセラピストの仕事をしてるんですけど。お化粧を高齢者にして校区の行事で、遺影写真を撮るっていう企画が開かれるときには必ず私は呼ばれて、丸1日江上の方々と話してお化粧して写真を撮るみたいなことをやったりとか。他のところでもいろいろ連絡を取って、「オンライン頼んでもお化粧頼んでも、写真撮影頼んでも、あんたたちに頼んだら何でも叶うね」っていうかわいがられ方をしています。

【岡】まちづくり振興会側の主体的な力・役割はなかったんですか。

【福々亭】人集めとかはしてくれたね。

【中村】結構がつつり一緒に動いてくださったかな。

【おきな】かなりやったと思います。全部プログラムも立てたし、あっちが声もかけたし、俺らも現場に行って進行するだけだったもんね。

【中村】江上校区の推しっていうのは、多分どんな企画でも一緒に動いてくれるところかもしれないで

す。

【おきな】それがちゃんとある。

【中 村】任せっぱなしじゃないっていう。

【おきな】ない。それはないし、僕らが頼んでも、こないだも出てくれたし。「あんたたちが言うんやったら、やるよ」っていう、このお互い様な感じが。他もあるのかな。

【4】オンライン公民館が意識する人々

【本 田】公民館というのは、地域の人が集まるイメージがあって。オンライン公民館になったことによって、久留米の人じゃなくて、久留米の人が別の場所に行っても入れるし、日本中どこにいる人でも入れるという利点はあると思うんですけど。その中でも皆さんが届けたい対象というか、このオンライン公民館に参加してほしい対象はどこにあるのかを、お伺いしたいです。

【中 村】久留米市の人たちにまずは届けたい。そこの久留米らしさっていう、久留米市の人たちを対象に届けるものというものが全国に広がったらいいなという発想でやっています。

【福々亭】私は、久留米市の人もそうなんですけど、久留米を出た東京の福岡県人会とか、そういった方々に久留米の今の情報とかをお届けできたらいいな、なんて思っています。あわよくば、そういった中央の方から久留米にいろんな支援が届いたらうれしいなと思ったりもしてます。

【おきな】僕、いいですか。僕は久留米の暮らしや関わりに興味がある人、というふうに答えていて。オンライン公民館はローカルメディアだと思っているので、コロナによって生まれたローカルメディア。暮らしを真面目にエンターテインメントしていくという、そこで、関わる人たち自身の暮らしがコンテンツだと思っているので、世界各地からは参加できるけど、あくまでも僕らは僕らの暮らし、関わりのエリアで、その関係性というのをやっていきたいなと思っています。全国、やりたいっていう人がいるんだったら、自分たちで自分たちの町で、ローカルメディアをやっていってくださいと。周りから見たらわからない情報がいっぱいあると思います。筑後川の話とかをされても、きっとみんなわかんないと思うけど、僕らはそれをOKにしている、だからこそローカルメディア、内々を広げる。そこに関係性、関わりを持ちたいっていう外の人があるのであれば、障害せずに全然OKだというような認識。そういうふうに先生が言ったように、オンラインは手法なのでという関係性かな。対象は。以上です。(略)

【牛 島】届けたいものがあるわけじゃなくて、場を作ってるだけっていう感覚なので。それはビジョナリアルの考えがすごく私は好きで、この人たち、場作りばかりするんです。(略)「オンライン公民館、なんでやってるの?」「楽しいからだよ」っていう。届けたいからやっているわけじゃなくて、場を作ることによってうれしい。一緒に仲間と準備していく、運営していくのが楽しいから。楽しいからやっているんで、これ、義務になってくると多分辞めたくなるので。第2シーズンだと思う。終わり。

【 岡 】場を作ることと届けることは違うんだっておっしゃいましたよね。

【牛 島】そうですね。私の中では。

【 岡 】広報は2wayコミュニケーションだと聞いたことがあるんです。コミュニケーションを創るんだ、と。同時に、ターゲットを細かく絞り込んで初めて、多くの人に伝わるとも聞きます。牛島さんにも無意識含め、ターゲットイメージがあるんじゃないかと思うんです。

【牛 島】より届けたい人はいます。同世代の女性が全然オンラインをやっていない人が多いので。

【おきな】あつこはね、それ、言うよね。「女性が少ない」って。

【牛 島】お母さん方っていうのは、仕事で使うものとか、必要に迫られて、絶対、ライブ、オンラインでしかやっていないとか、仕事だとか、must、have to だから見る。こういうエンタメのために自分の時間を

割くのは、テレビの方がいいなっていう人が多いんでしょうね。っていうか、子どもがいるしとか、買物行きたいしとか。

【おきな】日曜は特にね。

【牛 島】「ワイドショー、見たいよ」って、私も愚痴ったことがあります。「こら」って言われました。でも、入ってくれる同世代の女性もいて、その人たちは楽しんでくれている。

【おきな】そう考えると、対象って、我々でもちょっと違うのかもしれないですね。一人ひとりが。僕の本当に届けたい対象は、家から出れない人とか。そこをいつも思うんですけど、病院の病室のラジオみたいなのをイメージしながら、このオンライン公民館を組み立ててるんです。なので、本当に家から出れないっていう状態に自分たちがなったときに、そういうツールにならないかなっていうこと。さっきの質問で言うと、もうあと2歩深い話になると、僕はそこです。

【福々亭】私はコミセンの、先程お話しした、入口に引っかかれずに、居場所がまだ見つかっていない人ですかね。地縁を越えたコミュニティ組織の場であるというイメージをしていて。地域に、地元には縛られないコミュニティがもう1つ別で作れたらなっていう感じがしています。46校区あるんですけど、47校区目みたいな感じのイメージを。

【おきな】路子さんはどうですか。

【中 村】オンライン公民館って企画が10個ぐらいあるんです。例えば、私は美容に興味があるんだけど、この人は生涯学習に興味があって、この人は防災に興味があってっていう、興味が全くばらばらなのが住民じゃないですか。でも、それが1日で完結してしまうっていう、めちゃくちゃ面白みがあって。と別に、参加者を募りたいじゃなくて、関係者を募りたい。参加者が増えるよりも企画を一緒にできる人、関係者、運営を一緒にできる人、タイトルコールをしてくれる人。どちらかという運営する側の関係者の人に、「こういう人がここに入ってくれたら楽しいよね」とか、「ここで講座をしてほしいよね」とか、「トークライブを、この人をお呼びしたいね」という話からお誘いをします。すると参加者としての入口じゃなくて関係者からの入口になるので、どんどん一緒に運営ができていくっていうのが、オンライン公民館はめちゃくちゃ面白くて。

【おきな】他でもね。リアルでもそうだもんね。

【中 村】そう。

【おきな】リアルまちづくりと一緒に。

【中 村】一緒にやっていけるように。

【おきな】いっぱい動いていける人たちが生まれる。

【中 村】場作りでもあり、入口でもあって、単純なツールでもあるっていう。人と人がつながるための。なので、対象者っていうのは関係者をめがけていきたい、みたいなのが、広がりのポイントかなと思っています。

【おきな】そう。そこで切り替わったよね。最初はものすごくみんなで模索して、ちょっと内々過ぎなんじゃないかっていうところをやってたんです。あつこがさっき言ったように。でも、それじゃあ、もう楽しくないから続かない。別にお金をもらっているわけじゃないし。で、金ちゃんが言ったよね。「内々を広げたらどうですか」という言葉で、そのときに居たみんながすごい納得したんです。「そうだ。僕らがやりたいことって、暮らしている関わりだから」というところから、さっきの中村の話ですよ。かといって、じゃあ、新しく来た人を阻害するわけでもないです。それはもうウェルカムで、どうぞ聞いてください。でも、僕らはこの方針でやりますと。

【岡】非常に面白いお話ですが、本田さんはどうですか。今の話を聞いて。

【本 田】これからの展望として、全国的に広げていきたいわけではないということですか。

【おきな】そこもみんな違うのかな。一人ひとり。

【福々亭】かも、ですね。

【牛 島】変わってきたしね。半年前とまた気持ちも変わってきてるから。今、NOWな気持ちですか。しゃべってないね。

【おきな】じゃあ、一人ひとりいきますか。じゃあ、たまには。

【福々亭】私は、頑張ってるものじゃなくて、多分必要性とか、世の中に求められるものであれば広がっていくのかなっていう感じがしています。「オンライン公民館」っていう名前がついてる、ついていないに関わらず、オンラインを使った場作りといいますか、地域の課題を補完できるような、そういうものが広がっていくのかなという感じがします。おかげさまで、いろんなところからメール、問い合わせを頂いたりとかします。そこをきっかけに、その方の地域で活動が広がればすごく楽しいだろうなと思いますし、逆に新しくできたところと久留米との交流もすごく楽しいものがあるので、そういう形でじんわりと広がっていけばいいなという気はします。

【牛 島】運営する人がもう1団体ぐらい、久留米市内とか筑後地域とかにいればいいのになと思うんですけど、そういうのが出ないなと思って。福津とか福岡県内。それってやっぱり元々オンライン公民館をしようじゃなくて、現在全国でオンライン公民館をやっている人たちは、元々何かやってるもんね。元々何かやっている人がオンライン公民館をやればいいなとは思いますが。

【おきな】ゼロからはなかなかね。

【牛 島】そうそう。しんどいから。

(略)

【中 村】全国に広げたいかは、自然発生で広がっていくといいなと思っているのと、1年ちょっとオンライン公民館をやってきて、これからコロナを機に必要となる場だになっていうのは感じてて。人が出会うために必要な場。コロナ前にはなかった場みたいなのがあるって感じてるんです。だから、自分たちが楽しみながらやるイベントでもありつつ、ここの辺に住む人たちの日常に組み込まれていかないかなって。自分がスポーツジムに行くようにオンライン公民館に行くとか、スーパーに行くようにオンライン公民館で語るとか、そういう人の生活の一部になるぐらいのことを見越して、広がりを考えていけるようなやり方がないかなって模索している。それって本当に本筋をついてたら、勝手に広がっていくと思うんです。なので、そこをみんなて模索を始めるのが、このシーズン2かなって思っています。

【5】オンライン公民館メンバーの参加観

①参加者ではなく関係者として

【日 枝】参加者の方を取り込まれていくうえでの活動の参加者にとってのハードルや、関係者側、入っていく側のハードルをどのように認識されて、どう変容されていったのかを聞かせていただけたらありがたいです。

【中 村】オンラインに対してのハードルだけじゃなくて、このオンライン公民館自体に参加するハードルってということですか。

【日 枝】そういう精神的なものも含めて。

【中 村】ひとまず、オンラインというもののハードルが最初めちゃくちゃ高かったんで、企画を毎日10個する間、オンラインの使い方をずっと言っていました。まずは。

【おきな】タイトルコールで。

【中 村】左下にミュートがあって、アイコンの人は右上にあってとか、そういう具体的なこと。名前はこ

この3ポチを押したら、ここで名前を変えられますとかいうレベルからずっと言い続けてやってきました。やっぱり慣れてない。年齢に関係なく慣れていない方が多かった。ハードルがまず第一段階目にありました。

緊急事態宣言が終わって、このオンライン公民館って、ZOOMで顔を出して入らなくちゃいけない。入ってからじゃないと何をやっているか想像がつかない。どんな空気感なのかわからないっていうハードルが次に来たかと思っていて。そこはそこに入れたことがある人からのお声掛けで、「何時に入ってみて、そこではこういう場があるから」っていう、いわゆる口コミですかね。個人的にお誘いして入ってくる。そこで安心してその人がまた次、リピーターとか、ずっと入ってくれるようになる。そういう参加のハードルがめちゃくちゃあったなと。

逆にそのハードルを越えて、皆さんも感じたと思うんですけど、透明人間の状態でも入れるじゃないですか。オンラインって。名前も変えて、画面も消したら誰かわからない状態でも入れるっていうことは、さっきおきなが言いましたけど。家から一歩も出ない人、外に出れない人、引きこもりの人も入れたりする。そういうハードルを越えた可能性を感じていて。

なので、答えになっていないかもしれないですけど、人づてで伝わっていく部分と、入ってみたらやっぱりいつでも緩い感じで安心して入れるよね、っていう方がリピーターとなってきてというふうな。ちょっと曖昧ですけど、私はそういうふうに、オンラインと知らないイベントに参加するっていう、その2つのハードルを（意識しています）。ただの参加者として呼ぶんじゃなく、関係者として呼ぶと、ハードルが低くなる。自分の役割をそこに感じて入ってこられるようにする、とかっていうところで作っているのかな。半分無意識ですけど。私からは以上です。

②ハイブリッドから「ハイハイブリブリッド」へ

【福々亭】次、答えましょうか。これ、書いているんですけど、端末と電波と技術と、それがそろって入れるようなものだと思うんです。こことかみんくるさんとかで、特に大事なものとかにについては、配信というか、サテライト会場みたいな感じで上映をしたり、入ることができる端末を1台置いておいて、入りたいたときはその端末を使って話していただくような形の取り組みを、中村さんが作ったんですけど。ハイハイブリブリッドというのがありまして。ハイブリッドを超えたハイブリッドという。それをやることで。ハイハイブリブリットを説明してください。

【中村】リアル会場とオンラインをつなぐというハイブリッドは多分もう今は当たり前になってきていて。それを超えるもの。オンラインとリアルが融合することによって、もうちょっと私たちが思考したら、多分一緒にプロセスが作れたりとか、一緒にオンラインとハイブリッドする意味の良さをもっと提示できるんじゃないかなというのを、模索中なんです。このオンライン公民館を配信することで、そこが何が生まれるのかというところまで見越す、ハイブリッドだけじゃない、そこを超えていきたいっていう気持ちが高ハイハイブリブリッドという言葉で示されています。

【おきな】整っております。1年目、ハイブリッドをやったんです。そこで気づいたのが、やっぱり地域と絡まないといけないということ。根付くというコンセプトが組み込まれました。2年目にして、僕たちがやっているのはハイブリッドを超えるハイブリッドなので、ハイハイブリブリッドという名前になったんです。簡単に言うと、ハイブリッドを利用して地域に根付いて、対話の中からその次の糸口を見つけていく姿を高ハイハイブリブリッドという。ほら、完璧やろう？

【牛島】一緒よね。

【おきな】言いよることは一緒です。

【岡】でも、対話の中っていうところが、新しく出てきましたね。

【おきな】地域、根付く、地域の人たちと対話をする、その姿自体がもうハイハイブリッド。なので、ハイハイブリッドのパターンやケースは全部違うんです。地域によって。

③対話のなかで生み出されていくルール

【おきな】やっぱ顔を出したくないとか、学生さんとかそうじゃない？ やっぱ顔を出すのが嫌だとかあるし。そういう「ラジオ感覚で聞けんかね？」っていう参加者自体の声で、そのままルールになったり、あと、番組をやっている側からすると、垣根が高い。いきなり企画はできんやろうっていうことで、尼崎が産んだ、「失敗は全部電波のせいにして」っていうルールが出来上がったり。そこがそのハイブリッド。対話形式でルールも決まってくっていく。あと、エガミさんっていう、これは江上校区の方じゃなくて、エガミさんっていう80代の今もレギュラーを持っている方なんかは、最初はオンラインができないから、みんなの現地に来ていたよね。何回か。参加してなかったっけ。あつこがセッティングして。

【牛 島】そうですね。みんなからです。みんながZOOMを教えて、家から入れるようになって。

【おきな】そういうノウハウはみんなが施設があるので、そこでサポートしてもらってという垣根を取っている。あと、チャコちゃんっていう、ちょっと目が不自由な方がいるんですけど、その方もクルーで入っていて。彼女が入ることで何が起これるかという、画面を見せて共有して、「こうなんですよね」って言ったら、チャコちゃんに「すみません。どういうものが映っているんですか」って言ってもらうようにしているんです。そしたら、「失礼しました」って言って、ちゃんと説明する。「青い服を着ているお姉さんがここに居て」とか、そういうような参加者と一緒にハードルっていうのを自分たちも認識しながら、もう僕らは当たり前になっちゃっているんで、そこはみんなで役割分担しているのかなというふうに思いました。

あと、多世代交流のきっかけになればいいなと思っている。また別の話になっちゃうけど。最近、ユウリちゃんっていう久留米工業大学の子が入ってきてくれているんです。その子とエガミさん、80代の人っていう、ここの掛け合わせとかがわからないこと自体が面白いなと。ミツイシさんっていうおじいちゃんも入ってきて、めっちゃ話、長いんです。僕より長いんです。話飛ばし、いきなりカブトムシの話とかするし。

【牛 島】そうなんです。私、みんなと関係のあるじいさんなので、「ミツイシさん。時間、時間」とか言って。オンラインのここでズバツと切って、みんなが冷や汗たらっているのはあるんですけど、ミツイシさん、メンタル強いから大丈夫。ミツイシさんとユウリちゃんの…。

【おきな】掛け合わせ。参加者同士だった人が、いつの間にか関係になっていく、みたいな。

【牛 島】うれしくてしょうがないんです。大学生とオンラインでしゃべれるのが。「ユウリさんは」とか言って。もうちょい早くしゃべろうって。

【おきな】似とる。という感じです。以上です。

【日 枝】最初、自分の勝手なイメージとしては、オンライン上だけのつながりがあって、そこからどう現実としての関わり、まちづくりに関わっていくのがすごく疑問だったんです。それが、関係を持ってそこからつながっていくというのがすごくわかりました。授業全体で問われていた、ハイブリッドを超えるハイブリッドには、言葉としての疑問がどうしてもあって。ハイブリッドは理解できても、それを超えるってどういったことなんだろうって。その中で対話を地域の方と参加者の方々とされていくことに重きを置かれていて。そういった意味でもハードルと言いますか、下げようとされているなと感じました。ありがとうございます。

【6】 パラレルキャリアならではの地域とのかかわり

【鎌 田】最初にオンライン公民館の方々が江上校区に入っていったとき、どのようなきっかけがあって、動機がありましたか

【福々亭】先ほどお話ししたように、江上校区に同時並行で集中的に、人がいろんな立ち場で入り込んでたときがあって。つながりがすごく濃かったです。オンライン公民館を広めるとか、オンライン公民館の企画をお願いするっていう感じで行くよりは、例えば、中村さんはメイクの教室みたいなものだったりとか、みんくるの人はオンラインのサポートだったりで行ったり。なので、行ったときに世間話も含めたところで、仲良くなっていったというのはあるかなと思うんです。

【鎌 田】なるほど。いろんな立場で入っていくときは、つながろう、ぐらいですか。入ってきた動機としては。

【福々亭】1つは、双方からだったです。あと、社会福祉協議会さんと地域福祉課さんと一緒にやっていた事業の中で、その社協の職員さんが「ストップしてるサロンをオンラインでやれないかな」っていうふうにおっしゃって。「じゃあ、江上校区がモデル地区になるんじゃないか」っていうので、うちから働きかけたっていうのもありますし、オンライン公民館とコミセンの企画を何かやりたいねとなったときに、中村さんとおきなさんと仲がいい方が城島町の役場にて。その方につないでもらって、江上校区になったりとか。あちらはあちらで、「そういう面白いことができる人たちがいるんだったら、うちの企画に講師で来てよ」とか、「なんか手伝いに来てよ」みたいな感じで、江上校区さんからこちらの方にオーダーが来たりとかっていうのがありました。

【岡】最初にパラレルキャリアの話があったじゃないですか。それぞれいろんな顔を持っていると。今の江上への入り方も、それが活かされている感じがするんです。「団体として関わります。支援します」じゃない。いろんな顔で、あれやこれや関わっていく、みたいな。

【福々亭】そうなんです。

【岡】そのやり方だからこそ、良かったことみたいなところがあると思いますか。

【福々亭】私はあると思います。元々江上校区の会長さんは、一番最初にここに魚の話をしに来られた。くるめウスで魚の話をする講演で来て会ったりとか、私も江上校区に落語をしに行ったりとか。全然オンライン公民館が始まる前からなんかちょいちょい顔見知りだったりとか。なんかそこから入っていった気がします。私自身は、です。

【岡】顔見知り。だから、その顔見知りになるツールがあれこれあるということですよ。

【福々亭】そうですね。引き出しが多い。自分で言ってますけど。(略)

【岡】だから、やっぱり関係があるんですね。皆さんの活動スタイルとその可能性、オンラインとリアルがつながる可能性が、リンクしている感じがありますよね。

【福々亭】スピード感を持っていますよね。例えばNTTとかおっきなところだと、決裁を取ってなんかかんかして、動くのに労力が要りますよね。それが、もう呼ばれたら、ぶいっと行ったりすることがあるので。

【中 村】あと、程よい図々しさをみんなが持っていて。バランスを見ながらお話をしてる。いろんな入口から入った後に、その方々と対話をするって、ガチガチで対話をしましょうっていうスタイルじゃなくてちょっとこう娘になりきるぐらいの図々しきで話し出すと。

【おきな】「会長、元気しとっど？」みたいな。

【中 村】普段じゃ話さないようなことを話してきてくれたりとか、私たちが半分甘えてお願いしてみたりとか、やっぱその程よい図々しさが関係性を深めていって、「じゃあ、あんたたちの仲間にこんなことする人、おらんね？」とか、「今度、こげんすつとやけど、手伝ってくれんね？」っていうのが生まれてくる

ような気もしています。

【7】「公民館」として入館基準を決めたオンライン公民館

【田 中】匿名性っていう点で、さっき「透明人間にもなれる」っていうふうにおきなさんがおっしゃっていたんですけど。ニックネームの参加とか顔を見せない参加とか、声も出さない参加とか。そういう参加のハードルを下げるといって点ではすごくいいと思いますけど、ばーって荒らしがあって、メールでの方式に変えたっていうところで。そこで、会全体に見せていた頃のような開放性があったときと、でも、一方で安全な場を作るためにはちょっと参加のハードルを作らないといけないっていう点があって。そういうところの塩梅っていうか、どういうふうに考えて作っていったのか。

【おきな】尼崎とかはライブ中継しているのかな。You Tube で。町によってちょっと違うんです。うちはライブ中継をやっていないんです。それは、ナイーブな話とかが出てきたりとか、子どもたちが顔を出したりっていう企画もあるので、っていうことで、そこのところはやっています。

【福々亭】ちなみに、尼崎とか豊田は公開しています。

【おきな】公開しています。URL を。

【中 村】これ、大分迷って、今は20人程度でいいし、参加者より関係者とか言いよるけど、ステイホームの時期が終わって、参加者がガターンと落ちたときに、ほんと、15人、20人レベルで、毎回同じ顔、みたいなときがあって。「これって集客性くない？」って言って。「人が多いからこそ盛り上がり感が見えるし、イベントの参加者数的に20人って寂しくない？」みたいなところも、それこそ運営者側で対話を繰り返し広げて。結局、金ちゃんが言った「内々を広げていく感覚でいきましょう」っていうところに落ち着いたんだけど。

2回か3回変な人が入ってきて。久留米大学の松田先生が安全面を一番強く訴えてくれたかな。私たちは、そこら辺がちょっと曖昧で開放性でもいい、って思ったりもしたんですけど。1回ちょっとひわいな画像が出たことがあって、そのときにちょうど小学生の子どもたちが入った。これから先、オンライン公民館っていう、地域に根付いたものでありながら、人と人がつながるところも推していきたい場なのに、「いつ入ってくるかわかんない」みたいな緊張感とか不安感は。

【おきな】ほんと来ちゃったもんね。ストレスやったね、あれ。

【中 村】あっちゃいけないなって。

【おきな】1人入ってきたら、もうずっと3ポチって、ここに削除っていうのを待ち構えて、1人。顔出したら、OKとか。マイケルっていうハーフの人が入ってきて。友だちなんだけど。マイケルが入ってきたら、「うわ、外国人や。消さないかん！ 違った。マイケルやん」みたいな。

【中 村】「iPhoneが入ってきました」とか言われてもわからんやん。

【おきな】ドキドキしとった。(略)

【中 村】緊張して、するのも違う。それだったら、開放性にするって参加者が増える可能性があるし、いろんな人に広まるけれども、私たちは日常に組み込むために安全性を取ろうというところの判断基準かなと。

【牛島】最後に。第1シーズンの最初の方はそういうふう公開にしているあったので、第1シーズンの途中までは、私たちが共同ホストになって、入室許可を許可制にしていたんです。だけど、チャコちゃんが入るようになって、チャコちゃんがパスワードを打つのが大変だから、「あ、そうなんだ」ってなって、パスワード組込型のアドレスを発行するようにしたんです。今はだから、入室許可なしです、私たちは。一応ある。ケンケン、今度はアドレスで入ってこれないんだよね。「リンクを踏むと怖い」って言って、毎回。ケンケンっていうのはエガミさんのことです。81歳。必ずパスワードとあれを、メモを取った

ものを見ながら、iPadに入れていく。

【おきな】アンダーバーとハイフンを間違えて、1回。「見えん」って言われて。

【牛 島】アンダーバーとハイフン、見えん、わからない。1とかLとIの違いもわからない。そんなことを経て、パスワードはごく簡単にとかっていう工夫を今はしています。毎月、今、同じアドレスです。だから、入ろうと思えば入れる。入った人は。そうやってメールにしたことで、チャコちゃんたちには易しく入れるようになっているので。

【中 村】だから、透明人間だったとしても、ある程度たどっていけば誰かがわかる、みたいなところにいるっていう。

(略)

【福々亭】時が経って、突発的に素性のわからない人が入ってくるようなことは今のところないです。もしかすると、何かのきっかけでオンライン公民館がばーっとバズったりしたときに、また対策を打たなきゃいけないかもしれないですけど、今は安定して。

【おきな】もう1つ思っていたのは、くるめて元祖じゃないですか。なので、結構全国からも見に来られるんです。その人たちは興味が結構ある人たち、こうやって見てる人とか、もしかしたらわかんない人とかがいるので、結構こっちから声をかけますよね。「あら。長野から今日は、なんとかさん、声出せますか」とかいうのはやりますよね。他のところはまた違うのかもしれないです。

【福々亭】とは言いつつ、プラス、なんか突然変なのが来たときは、もうすぐはじけるような体制は取っています。

【おきな】めっちゃ叫ぶ人とかいましたね。「うわー。なんとか、かんちょう、かんちょう、かんちょう」みたいな。

【 岡 】プチッと切るわけですか。そういう人は。

【おきな】もう冷静に、何事もなかったかのように消します。はいって。

(略)

【福々亭】こういう場って、公共施設なんかはいろんな人が来るので。

【中 村】公民館だし。

【おきな】基準として、よくそういう話をしてたときの基準で、「公民館やったら、どうやったね？」っていう言葉は結構出てたような気がします。「だって、公民館やったら、いきなりそんな外人が入ってきて、わいせつな画像とか流さんやん」「確かに。じゃあ、それはできんよね」みたいな。そういうところで結構リアル公民館みたいな場が、僕らの中で1つ象徴としてあるんだなって、今、気づきました。「受付、1回通らないかんよね」とか言いよったもんね。

【福々亭】そうそう。

【おきな】「公民館も受付があるやん。玄関があるやん」とか。

【8】 オンライン公民館スタッフの「内々を広げる」場づくりの工夫

【黒 木】内々を広げればいってという話、すごくなるほどというふうに思ったんです。内々で本当に難しいなって、私は自分の経験で感じていて。1つ自分たちと組むコアな団体があって、それを知り合いをつなげていくってなったときに、どうしてもイメージを、自分たちがやりたいこととか思いみたいなものを共有するのがなかなか難しい。最初からいる自分たちは対話を繰り返して、ある程度イメージとか言うことは共有できている状態なんですけど、外から入ってくるってなったときに、どうしてもそれをニュアンスで伝えるのが難しいから、どうしても入れる側がハードルとか労力を感じてしまう。どういうふう

に内々を広げていくことをされたのかお聞きしたいです。

【福々亭】元々おきな、中村、牛島のお三方は、長く付き合いがあって。私は後から入ったんです。最初に参加させてもらったときに、なんかすごく温かい場だし、いると学びも多いし、「この人たちの輪に入りたいな」って、そういうの、あるじゃないですか。私、元々陰キャなんで、そういう仲良しの人たちのところに入りたいなと指をくわえて。

ある程度の内々な感じはやっぱり最初入ったとき、感じたわけです。どこをきっかけにこう入ったらいいのかな、みたいな感じで。ただ、そこで勇気を持って私がやったのは、「オンライン公民館の運営に入らせてください」と手を挙げたんです。一緒にやる中で、なんとなく共通言語だったりですか、〇〇さんの友だちと知り合いになったりとか。そんな感じでうまくすーっと入っていけることができたんです。なので、受け入れる側の努力も大事なんですけど、入る人の努力も大事じゃないですか。「内々感だ」って去っていく人は、多分まだそこに入る準備ができていないだけなんだと思う。だから、それでもそこを乗り越えて入ってきたっていう人たちを、すごく私自身は大事にしたいな思います。そうじゃなくても、来てくださった方には、さっきおきなさんがおっしゃったように、「どこどこからご参加、ありがとうございます」とか、他の方にはわからないような話が進んでいるって感じたときは、1回戻って「これは元々こういう話でできたことです」とちょっと優しく説明してあげたり。そういうのは、お二方はすごく上手。

【牛 島】あつこさんも。金ちゃんも上手。

【おきな】路子さん、どうですか。

【中 村】言われていること、すごくわかるなと思って。どうしてるかなって考えたら、私は思いを直球で投げっていくタイプなので、この人に入ってほしいなとか、関わってほしいなと思ったら、資料を持ってでもなんでも「1回、時間取って」って言って話にいくなと思ったのと、あと、いろんな場面に入ってきて、例えば、お誘いしてなくても出会う場面があったとしたら、それこそさっきの話じゃないけど、ちょっと図々しく、速攻で下の名前前で呼ぶとか、図々しく行く。名字は私、基本的に呼ばなくて、「こんにちは。中村です」って言われたら、「下の名前、なんですか」って聞いて、下の名前のニックネームをすぐ付けて呼ぶと、めっちゃくちゃ距離感が縮まって、アウェイの中に入ってきた人が、多分ちょっとした居場所が作れる。それを私とあつこで「キャラ強化」って言うてるんですけど。キャラを設定してあげる。「この人、いじられる側だな」と思ったら、どんどんいじったり。最初、はじめましての信頼関係を築くまでは、キャラを設定して、みんなからも話しかけられるぐらいの発信の仕方、その人と接してみるとか、下の名前前でみんなが呼びやすく、声をかけやすい状況を作るとか。

【おきな】尼崎のツヨボンとかがそうやもんね。尼崎じゃ普通の1参加者だったんすけど、めっちゃツヨボンっていう。

【中 村】めっちゃ真面目な40代の方で、いつもこのまっすぐから動かないみたいな感じで。

【おきな】フリーズしとんやないかっていうぐらい。姿勢もめっちゃくちゃ良くて。

【中 村】そう。怖いとあんま話さんし。その人「フルカワさん」ってみんな言ってたんだけど、もういきなり（ツヨシさんを）ツヨボン呼びでいったら、最初めっちゃ嫌がって。

【おきな】「やめてください」。

【中 村】それでもツヨボン呼びで行ったら。

【おきな】「ツヨボ、ボンボンボンさん」とか言ったら、「そういうの、やめてください」。

【中 村】仲良くなっていく。

【おきな】ほんと真面目な人で。

【中 村】そういう浅い入口から、その人が居心地がいい場所をいかに作れているか、自分対その人だけじゃない状況をどれだけ作れるかは、考えているなと思いました。

解題

今回の久留米オンライン公民館へのヒアリングでは、組織事情や活動の内容、校区コミュニティセンターとの関わりや新しい参加の方法など多岐に渡って興味深い内容を聞くことが出来た。本稿は、その中でも、久留米オンライン公民館に関わるスタッフの「パラレルワーク／パラレルキャリア」と活動との関係について記述する。久留米オンライン公民館のスタッフ達は、久留米市内で様々な市民活動を展開すると同時に、様々な働き方、「パラレルワーク／パラレルキャリア」を実践する人々でもあった。そのため、彼ら／彼女らは市民活動・働き口の数だけ違った「顔」を持っていた。また、オンライン公民館が任意団体であるという位置づけは、この「顔」の多様性を大切にするという共通意識の具体的な現れであった。

この「顔」の多様性は、地域という対面の場に根差し、オンラインツールを用いてその地域の新たな価値を創造・発信する「ハイハイブリブリッド」のきっかけとして有効に働いていた。その事例として、江上校区ではオンライン公民館のスタッフが様々な「顔」を持っている事でそれぞれが柔軟に江上校区に関わっていたことがきっかけとなって対話が生まれ、地域に根差すようになった。そこからオンラインを用いた江上校区文化祭という「ハイハイブリブリッド」が生まれている。彼女ら／彼らが「パラレルワーク／パラレルキャリア」を実践していたからこそ、江上校区のような柔軟な関わりに基づいた新しい地域の価値の創造が可能であったのだといえるだろう。

(座談会部分編集および解題：鎌田 宜佑／Kamata Takahiro)

2-2 公民館からコミュニティセンターへ

—久留米市の場合—

From 'Kominkan' to 'Community Center' in case of Kurume City

— Materials and Commentary —

解説・解題 鎌田 宜佑[※]
Kamata Takahiro

解説

久留米市では、平成11年3月のコミュニティ審議会答申が小学校区内のコミュニティ団体・組織のネットワーク化の契機となり、平成21年4月には旧久留米市の27校区で校区コミュニティ組織が設立され、同時に組織を繋ぐ久留米市校区まちづくり連絡協議会が設立された。その後平成25年4月久留米市校区まちづくり連絡協議会に現久留米市全46校区が加入し、平成27年3月にはまちづくり活動の拠点施設〈コミュニティセンター〉が市内全校区で整備され、現在に至っている。このようなコミュニティ組織の整備の流れの中で、久留米市は先述のように全館がコミュニティセンターとなり、コミュニティ組織の一要素として位置付くようになった。(図1・2参照)

本稿では、久留米市まちづくり活動の手引き(以下手引き)と久留米市校区公民館/校区コミュニティセンター建築補助金交付の概要及び施設平面図から、両館の事務局分掌や施設建築に関する考え方の違いを考察した。また、事務局分掌に関する考え方の違いを比較するにあたって、「公民館長(以下館長)/コミュニティ組織会長(以下会長)」と「公民館主事(以下主事)/校区コミュニティ組織事務局長(以下事務局長)」の役割と職務内容の比較をした。これらの役職は完全なる対応関係にあるわけではないが、以下の点において共通する部分が見受けられたため、本稿ではこの両役職を比較している。

- ①館長/会長・・・全体の責任者であるという点
- ②公民館主事/事務局長・・・手引きにおいて同じ文言が使われている点

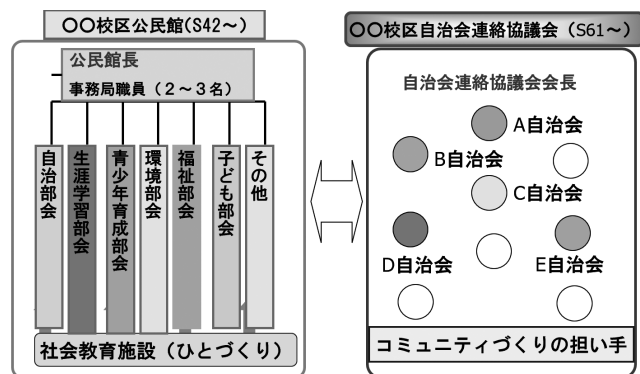


図1 旧久留米市組織図

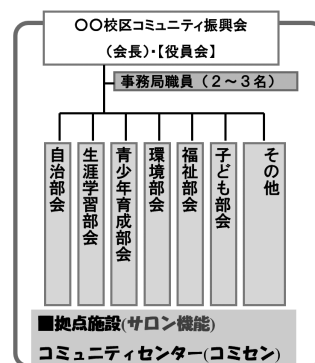


図2 現久留米市組織図

(『①校区コミュニティ組織の歴史など』より筆者編集)

1. 事務分掌に関する考え方の違い

[1] 校区公民館役職員の役割・職務内容

『平成16年度 久留米市まちづくり活動の手引き』より

※資料引用部は□囲み

3 校区公民館の役職員：まちづくり活動の指導者、施設の管理者

校区公民館には、組織としての校区公民館の経営と様々なまちづくり事業を実施するための中核的な存在として、また、施設としての校区公民館の適正な維持管理のために、次のような役職員がいます。

●校区公民館の役職員

(1) 校区公民館館長

館長は、振興会から校区公民館の経営を委託された総括責任者であり、その職務内容の主なものは次のとおりです。

- ①校区内のまちづくり課題や教育、文化、スポーツ、レクリエーション等に対するニーズを把握し、それらをもとに地域住民各層との協議等を行い、校区公民館事業計画やまちづくり総合計画を立案します。
- ②振興会等で承認された校区公民館事業計画やまちづくり総合計画を踏まえて、校区公民館の経営管理にあたり、各種事業を企画し、実施します。

(2) 主事（主事補）

主事は、校区公民館における中核的な職員であり、校区公民館で行われる事業が広範にわたることから、その職務内容もきわめて幅広いものになります。

基本的には、館長の指示を受けて、住民の生活課題や地域課題を調査し、住民主体の学習や実践活動を通して課題解決に取り組めるように、総合的なまちづくり活動の指導にあたります。

主事の職務内容の主なものとしては次のとおりです。なお、主事補の職務内容は主事に準じ、それを補佐します。

- ①校区内の様々な課題の実態把握
- ②校区住民の様々なまちづくり活動に対する動機づけ
- ③校区内の各種団体やグループ等の連絡調整、指導及び助言
- ④各種事業の広報をはじめとする校区住民への情報提供
- ⑤各種事業の実施に必要なスタッフ等との連絡調整、指導及び助言
- ⑥その他、校区公民館の経営に関する計画及び実施事務、施設の維持管理、行政や関係機関等との連絡、調整

(3) 事務員

事務員は、主事と同様に校区公民館の常勤職員であり、館長又は主事の指示を受けて、校区公民館の庶務会計やその他の事務の処理にあたります。

事務員の職務内容として主なものとしては、次のとおりです。

- ①校区公民館の文書受付、発送等に関する事務
- ②来館者や電話等による校区住民への対応事務
- ③校区公民館の経営管理に関する事務（帳簿管理、備品管理、報告書作成）
- ④校区公民館の庶務及び会計事務（日常的な庶務会計及び出納事務）
- ⑤その他、校区公民館内の美化と整理整頓

[2] 校区コミュニティセンター（組織）役職員の役割・職務内容

『令和3年度 久留米市まちづくり活動の手引き』より

※資料引用部は□囲み

2 校区コミュニティ組織の体制

校区コミュニティ組織には、組織を運営し、さまざまな校区まちづくり活動を実施するため、また、組織の拠点施設である校区コミュニティセンターの適正な維持管理のために、次のような役職員がいます。

(1) 会長

会長は、校区コミュニティ組織の代表者であり、全体の責任者です。地域のまとめ役として、他の役員や住民がそれぞれの立場で十分力を発揮できる環境づくりを行うなど、重要な働きかけをすることが求められます。

校区コミュニティの組織運営においては、様々な意見を聞き入れる姿勢が大切です。会長は、情報や課題の共有化と住民合意形成を推進することが大きな役割です。

また、会長を始めとする役員は、自らが活動する任期を認識して、自分の公認となりうる人材を発掘し育成していくことも大きな役割です。

- ①会の総括、住民合意形成の推進
- ②会の意志を対外的に伝達、他の主体との連携推進
- ③他の役員や住民が力を発揮できる環境づくりと活性化
- ④地域内のさまざまな課題解決への全体的な助言
- ⑤地域内のさまざまな活動の担い手となる人材の発掘及び育成

(2) 役員及び役員会

校区コミュニティ組織は、校区内の各自治体や各種住民団体などが相互にネットワークした組織であるため、一部の人で運営されるのではなく、多くの人の意見が反映されることが必要です。

そのため、役員は、合議体である役員会において情報や課題を共有化し、方向性を調整し、合意形成を図るという役割があります。そういった意味で、役員会は校区コミュニティ組織の中核であるといえます。

例えば、校区コミュニティ組織は行政から公の委員の推薦を依頼される場合がありますが、公の委員は校区まちづくり活動との関係がふかいことから、推薦候補者の決定に当たっては、役員会で十分に協議するようにしましょう。

組織全体で情報や課題の共有化、合意形成を図るためには、役員会には、構成団体の代表者がすべて参画して定期的を開催することが望ましいことです。

しかし、構成団体は多数であり、何十人もが参集する会議を毎月開催することは、現実的には困難と思われれます。

そこで、各校区コミュニティ組織では、部会内での情報共有化や合意形成を行う前提で、部会から役員を選出するなどの工夫をしています。

この場合は、情報共有化などの停滞が生じる場合があるので、各役員は、多くの校区住民理解と参加が進むよう、部会や構成団体との関係に特に配慮する必要があります。

(3) 部会及び実行委員会

校区まちづくり活動を効果的かつ効率的に行うために、目的が類似する活動を行う構成団体ごと区分して部会を設けている場合が多くあります。

また、特別な事業を行うために、役員や構成団体から選出された委員とあわせて、一般の校区住民の参画を得て実行委員会を組織し、課題解決や活性化を図る場合もあります。

いずれも、校区コミュニティ組織の内部組織であり、効果的で効率的かつ機動的な活動を行うためのものであるといえます。

ただし、前述のように情報共有化などの停滞が生じる場合があるので注意が必要です。部会や実行委員会を運営するに当たっては、役員会や各構成団体との情報の共有化や合意形成の働きかけを特に行うよう配慮する必要があります。

(4) 事務局

校区コミュニティ組織の事務局は、一つひとつの自治会や各種住民団体などの自主的・自立的な構成団体との間で連携、調整、支援を行い、校区コミュニティ組織としての一体性を図りながら、業務を遂行することが役割です。校区コミュニティ組織の要ということができます。

ただし、限られた人数なので、すべての構成団体のすべての事務を支援することはできません。構成団体が自主的・自律性を維持できるよう、校区住民のうちから担い手を育成するとともに、的確な事務の支援を行うことが大切です。

また、校区まちづくり活動の効率化を図り、新たな視点による課題解決や校区の特色ある事業などに取り組むことができるよう、事務局内の業務分担には配慮が必要です。

事務職員の職員像及び主な役割などは、次のとおりです。

② (略)

②事務局長

事務局長は、校区コミュニティ組織事務局における中心的役職であり、校区コミュニティ組織で行われる事業が広範な領域にわたることから、その職務内容もきわめて幅広いものになります。

基本的には、会長の指示を受け、住民の生活課題や地域課題を調査し、住民主体の学習や実践活動を通して課題解決に取り組めるように、総合的な校区まちづくり活動の連絡・調整に当たります。

事務局長は管理職に位置付けられ、その職務内容の主なものは、原則として次のとおりです。

ア 校区まちづくり活動に関する企画立案・総合調整

イ 校区内のさまざまな課題の実態把握（気づき）

ウ 校区住民のさまざまなまちづくり活動に対する動機づけ、住民合意形成促進

エ 中期的な校区まちづくり活動計画の検討

オ 総会や役員会など主に校区コミュニティ組織の意志決定を所管する内部組織の運営

カ 他の協働の主体（他の地域コミュニティ組織やNPO、事業者、教育機関、学生ボランティア団体など）との連携など

キ 事務局員の総括、校区コミュニティ組織の運営に関する計画及び実施事務、施設の維持管理、行政や関係機関などとの連絡・調整 ほか

組織の代表者はあくまでも会長ですが、組織を運営する上での実務的な部分は事務局長をはじめとする事務局が担っているところが大きく、重要な役割を担っています。

③事務職員

事務局員は、事務局長と同様に校区コミュニティ組織の常勤職員であり、会長又は事務局長の指示を受けて、校区コミュニティ組織の内部組織や構成団体などとの連携・調整・支援を行い、庶務会計や校区コミュニティセンター予約受け、その他の事務処理に当たります。

事務職員は一般職に位置付けられ、その職務内容の主なものは原則として次のとおりです。

ア 校区まちづくり活動に関する庶務・会計処理

- イ 自治会や各種住民団体など構成団体との連携、連絡調整、支援
- ウ 実行委員会や各部会など校区まちづくり活動を実践する内部組織の運営
- エ 校区コミュニティセンターの予約受け付け・管理
- オ 来訪者や電話などによる校区住民への対応事務
- カ 校区コミュニティ組織の運営管理に関する事務（帳簿管理、備品管理、報告書作成）
- キ 事務局長の補佐、校区コミュニティ組織の運営に関する計画及び実施事務、施設の維持管理、行政や関係機関などとの連絡・調整などのうち事務局職員間で役割を分担した業務 ほか

解題

第一に館長と会長それぞれの役割を見ると、館長は「校区公民館の経営を委託された総括責任者」としての役割を担っている一方で、会長は「コミュニティ組織の代表者であり、全体の責任者」としての役割を担っている。また、2者の職務内容をみると、館長は地域のニーズ把握と、それに基づいた計画の実施に重点が置かれている一方で、会長は組織活性化のための環境づくりと合意形成の推進に重点が置かれている。両者ともに全体の責任者としての立場は変わらないものの、館長が施設経営に対して、会長は校区コミュニティ組織運営全体に対して責任を負っている。

第二に公民館主事と事務局長それぞれの役割を見ると、主事が「総合的なまちづくり活動の指導」であるのに対して、事務局長は「総合的な校区まちづくり活動の連絡・調整」となっている。また、2者の職務内容を見ると、主事が校区内の団体や事業を実施するのに必要なスタッフへの指導という職務内容であるのに対し、事務局長の職務内容には指導・助言という言葉が無くなり、「内部組織の運営」「他の協働の主体との連携」など組織内部及び他団体の調整役としての職務内容が追加されている。

このような違いを見ていくと、公民館が施設ベースで役割や職務が決定されているのに対し、コミュニティセンターが組織ベースで役割や職務が決定されていることが分かる。そしてこのことから、かつて活動の中心であった施設が、コミュニティ組織の一構成要素へと位置づけが変容したことが考えられる。

2 施設建築に関する考え方の違い

①施設建設基準の違い

[1] 校区公民館における施設建設基準

『久留米市校区公民館等建築費補助金交付要綱』より

※資料引用部は□囲み

(目的)

第1条 この要綱は、社会教育法（昭和24年法律第207号 以下「法」という。）の精神にのっとり、法第21条第2項の規定にもとづき法人が設置する公民館及び法第42条第1項の規定にもとづき設置する公民館に類似する施設（以下公民館）の設置に対して、予算の範囲内において補助金を交付し、もって社会教育の組織的活動に資することを目的とする。

(補助の対象及び要件)

第2条 補助の対象となる公民館は、校区公民館の登録に関する規則（昭和42年久留米市教育委員会規則第4号）により登録された校区公民館または当該校区公民館が推せんした小地域公民館とし、次の各号に該当するもので教育委員会が適当とみとめたものであること。

- (1) 法第20条の目的に従って設置されるものであること。
- (2) 対象地域住民を代表する組織によって設置運営が適正に行われるものであること。

- (3) 新築、増築及び大規模の模様替えであること。(原則として建築確認通知書がとれること)
- (4) 建築の財源が確実であること。
- (5) 校区公民館については、原則として鉄筋コンクリート造りであること。
- (6) 集会所、会議室、研修室、図書館等必要な施設を備えるものであること。
- (7) 工事費が100万円以上であること。
- (8) 原則として、当該年度内に設置が完了するものであること。

(補助対象経費)

第三条 補助金の対象となる経費は公民館の建築に要する本工事費（建築基礎、く体、屋根造作及び仕上げ部分）並びに附帯工事費（電気、ガス、給排水等）と教育委員会が必要と認めた設計監理に必要な経費とする。ただし、校区公民館建築については、設計監理に必要な経費のうち予算の範囲内において、別途補助する。

(補助金の額)

第4条 補助金の額は次のとおりとする。

(1) 新 築

ア 校区公民館

第1表の第2欄に掲げる1平方メートル当りの基礎単価（略）に同表第3欄に掲げる人口段階別基準面積（略）を乗じて得た額の3分の2以内の額（略）

イ 小地域公民館（略）

(2) 増 築

ア 校区公民館

第1表の第3欄に掲げる人口段階別基準面積に達するまでの部分とし、補助金の額は、第1表の第2欄に掲げる1平方メートル当りの基準単価（略）に増築部分の面積を乗じて得た額の3分の2以内の額（略）

イ 小地域公民館（略）

(3) 大規模の模様替え及び改修

ア (1) のア及びイに定める基準の範囲内で教育委員会が必要と認めた額。

イ その他教育委員会が必要と認めた額

第1表 〈校区公民館〉

人口		基準面積	1平方メートル 当りの基準単価	限度額	特別補助基準面 積（増築20%）
以上	未満				
—	7000	330㎡	137,000円	30,140千円	—
7000	10,000	390㎡		35,620千円	78㎡
10,000	15,000	450㎡		41,100千円	90㎡
15,000	—	510㎡		46,580千円	102㎡

[2] 校区コミュニティセンターにおける施設建築基準

『校区コミュニティセンター等建築費補助の概要』より

※資料引用部は□囲み

久留米市では、地域住民による自主的・自立的で総合的なまちづくり活動を促進するため、集会所の建築に必要な経費の一部を助成しています。

1 補助の要件

- (1) 自治会等がその地域内に設置する集会所であること
- (2) 組織規約・施設管理運営規約等が整備され、適切に運営されているもの
- (3) 建築に必要な財源を持っていること
- (4) 新築の場合は、集会所として必要な設備を備えていること
(例 集会室・会議室・図書館(室)・調理実習室など)
- (5) 新築・増築の場合は、建築確認を受けること。
- (6) 原則、工事費が100万円以上であること。
(公共下水道接続工事についてはこの限りではない)
- (7) 申請年度内に工事が完了すること
- (8) その他、市が特別に認める場合

2 補助対象経費

(1) 算定方法

- ・新築工事の場合： 建築面積 × 建築単価 × 補助率
- ・増築工事の場合： 増築面積 × 建築単価 × 補助率
- ・修繕・模様替え工事の場合： 補助対象経費 × 補助率

(略)

(2) 補助限度等

		校区コミュニティセンター					自治会集会所			
人口	以上	—	7,000	10,000	13,000	16,000	—	600	1,000	2,000
	未満	7,000	10,000	13,000	16,000	—	600	1,000	2,000	—
基準面積 (㎡)		370	430	500	560	650	110	165	220	330
補助率	新築	5 / 5					2 / 3			
	増築・修繕									
	模様替え等									

構造	1㎡当たりの基準単価 (円)
木造	110,000
鉄骨造	157,000
鉄筋造	185,000

②施設平面図の違い

[1] 校区公民館

『平成16年度 安武校区公民館 施設平面図』より

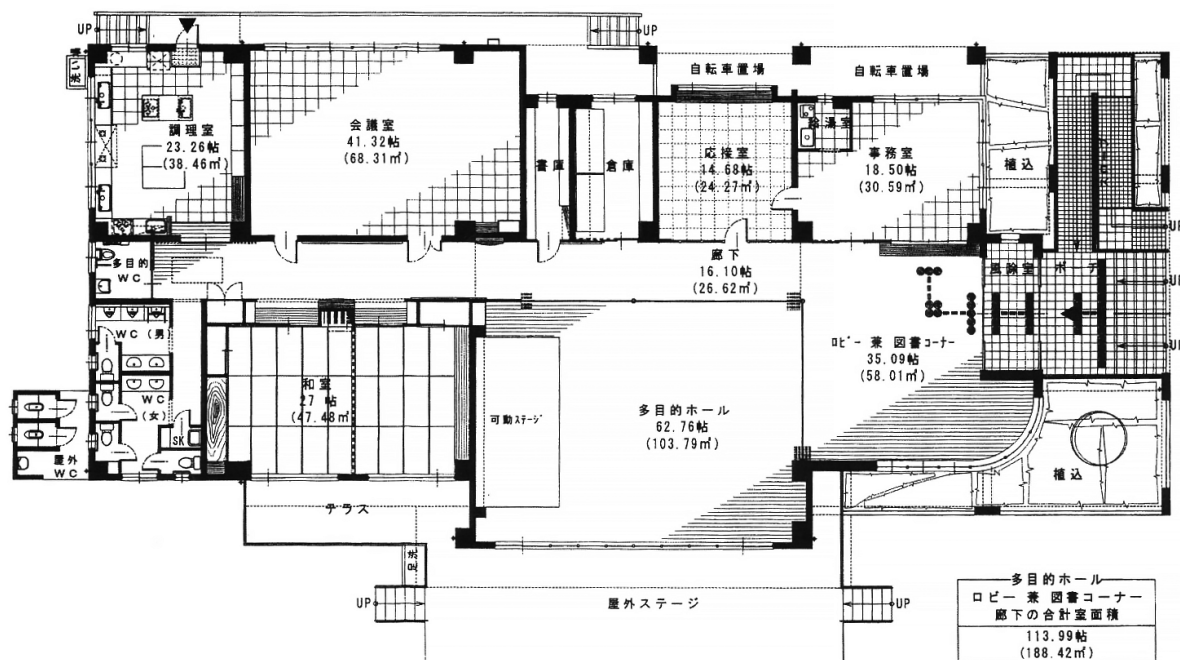


図3 安武校区公民館 施設平面図

表1 施設内主要設備一覧

事務室	1室 (30.59㎡)
応接室	1室 (24.27㎡)
会議室	1室 (41.32㎡)
ロビー兼図書コーナー	1室 (35.09㎡)
多目的ホール	1室 (103.79㎡)
和室	1室 (47.48㎡)
調理室	1室 (38.46㎡)

(図3より著者作成)

[2] 校区コミュニティセンター

『平成26年 青木校区コミュニティセンター 施設平面図』より

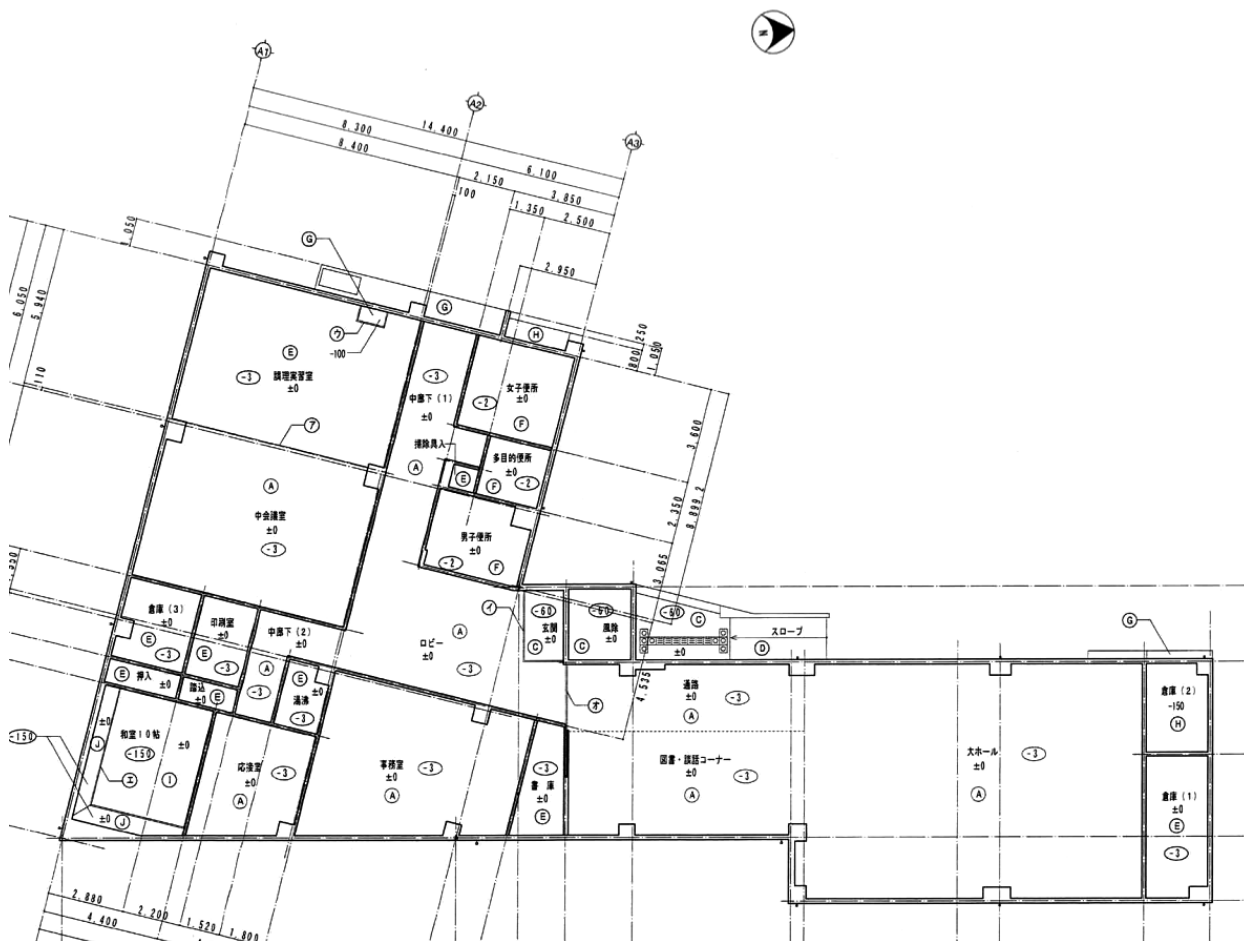


図4 青木校区コミュニティセンター 施設平面図

表2 施設内主要設備一覧

事務室	1室
応接室	1室
中会議室	1室
ロビー	1室
図書・談話コーナー	1室
大ホール	1室
和室	1室
調理実習室	1室

(図4より著者作成)

解題

かつての久留米市では、校区の責任で校区に公民館を建設・運営し、市はそれに一定の基準に基づき資金補助をするという自治公民館と類似した形式を採用してきた。公立公民館は市の責任で建設されるのが一般的な中、公立公民館に相当する施設が市の補助で建てられるという形態を現在にいたるまで取っているのは久留米市の公民館建築において大きな特徴であったと考えられる。関連して、久留米市は人口によって床面積が変動し、それに対応して補助金の額も上限が増減する補助基準が設けられている。福岡市が校区公民館は人口のいかんに関わらず、一校区に1館の床面積が150坪＝約500㎡であることを考えると、建設基準においても久留米市は独自の方法を採用していたことが考えられる。

また公民館とコミュニティセンターとの建設基準比較では、公民館時代には補助の要件として「社会教育法」に基づくことが必須であった。しかしコミュニティセンターでは社会教育法に関する記載が無くなり、「組織規約・施設管理運営規約等」と変更されている。このことから、社会教育施設としての公民館から、校区コミュニティ組織の拠点へと施設の性格が変容したことが読み取れる。